

バンビオファミリー人形劇

お風呂屋さんにひとりで行った太郎くん。お風呂から上がってみると、
「あっ! ぼくの服がない!?!」
残っていたのは なんとペンギンの服でした。

おい ペンギンさん



大阪弁のナンセンスな人形劇

人形劇団 クラルテ



2024 3月20日(水・祝)

開演AM11:00/PM2:00(開場各15分前)

受付開始:各1時間前 上演時間:約1時間

入場料(税込):前売1,700円 当日2,000円

3歳以上有料/自由席

※前売券完売の場合、当日券はございません。

予約受付開始 2/3 (土) 10:30

長岡京市中央生涯学習センター
(バンビオ1番館3Fメインホール)

JR長岡京駅下車すぐ(バンビオ2番館南側に市営駐車場あり)

主催/長岡京市中央生涯学習センター
(指定管理者:大阪ガスビジネススクリエイト株式会社)

人形劇団クラルテ

後援/乙訓私立幼稚園協会 協力/NPO法人おとくにバオ

(ご予約・お問い合わせ)

長岡京市中央生涯学習センター ☎ 075-963-5500 (9:00~21:30) fax 075-963-5504 <https://www.bambio-ogbc.jp/>

人形劇団クラルテ ☎ 06-6685-5601 (10:00~17:30 日祝休み) <http://www.clarte-net.co.jp>

おーい ペンギンさん

大阪弁のナンセンスな人形劇

原作／岡田よしとか(福音館書店刊)

脚色／松本則子 演出／西村和子

美術／永島梨枝子 音楽／一ノ瀬季生

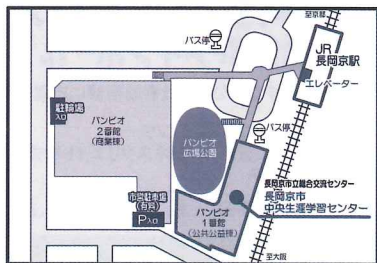
ほんまにあったらええのになあ

脚色 松本則子

一人でお風呂屋に行ってみようかなと思って、思い切ってお父さんに言ったら許してくれた。お母さんも「行ってもいい」と言ってくれた。「服、まちがえんと帰るといでや」と言われ、「間違えるわけないやん」と胸を張って出かけてきた。そやのに、風呂から上がった『僕の服がない。』これでは帰られへん。『ペンギンの子がまちがって着て帰った』と番台のおばちゃんが言うた。なにがなんでも南極まで行って、服を取り返さなあかん。

走りだす太郎君。私は思わずエールをおくります。そやで「ここで、シオシオと帰ったら、二度と親から信用してもらわれへんで」と。泣きもせんとまっしぐらに走る太郎君。ほらみてみ、世間も捨てたもんやないやろ、手伝ってくれる大人はようさん出てくるやんか。そやけど、手伝ってくれる大人って、みんなけったいな人ばかりやな。けったいやけど、あったこうて、ええ人やな。

何かに向かってひたすら走る。人に助けられながら、自分の目的を達成する。体を動かして何かをすることが苦手な社会。人と人の心の伝達が会話という形を取りにくい社会。そんな社会で暮らすしかない子ども達に、「こんなことあったら面白いとおもわへんか」「こんなことあったらやれへんか」と子ども達に呼びかけながら創りました。



JR長岡京駅下車すぐ(バンビオ2番館南側に市営駐車場あり)



3.21
世界人形劇の日

子どもたちは誰もなにがしかの誇りを持って生きている。それは大人から見ればささやかでとるに足りないことでも、3歳は3歳の、5歳は5歳の、小学生になったら小学生としての輝かしい誇りなのだ。それを守ることは日々の成長であり生きている証。生きる力だと思ふ。太郎君が、心配するお父ちゃんを尻目に初めて「一人で風呂屋に行つて間違わずに自分の服を着て帰つてくると自信満々、勇んで風呂屋にでかけた、ただ、その行為をまっとうするために、「おーいペンギンさん」とペンギンを追いかけて南極まで突っ走ることになる。そんな一途な太郎君について巻きこまれて力を貸してくれるユニークな大人たち。上からの目線の押し付けがましいよけいなおせっかいの大人は多いけど、太郎君の気持ちを受け止めてまともに向き合い一緒に行動できる大人たち。大人もまんざら捨てたものじゃないと、こどもたちに思ってもらえる世の中でありたい。

「一人で風呂屋に行く」と張り切って出かけて、「自分の服を着て我が家に帰ってくる」まで、ずいぶんながーいお風呂だったけど、そのながーい間に太郎君が獲得したものは計り知れない。出逢いとわかれも含めて体験したこと総て宝物だ。誇らげな満足感でいっぱい、ちょっと大人になつたような気さえる。

お父ちゃんとお母ちゃんにかこまれて、食べる南極みやげのかき氷の味は、かくべつ冷やっこいけど、このうえなく暖かい。

演出 西村和子